

# 春夏冬の合宿

## 合宿概要

当会では年間3回の春夏冬の合宿を計画実施しており、その山行形態は多種に及び、春の山スキー、夏のロッククライミング、冬の雪稜、アイスクライミングなど山に接する手段は旧来とさほど変わらないが、そのパーティーを構成する人数は大きく変化し、組織から個人に変わりつつある。

## 春山合宿

春合宿が正式に記録として残されたのは1989(H1)年からで、各会員の希望が反映され、山スキー、縦走、登攀など自由なスタイルで行われてきた。

## 夏山合宿

夏合宿は集中山行、岩登りの計画が創設当初より多く実践され、1967(S42)年からの6年間は前穂高岳東壁、滝谷周辺で集中的に計画が組まれた。

1979(S54)年からの14年間で交互に行われた穂高岳、剣岳の計画はクライミングギアの発達にも助けられ、ひとつのクライミングブームを顕著に表している。

かつてのザイルはロープと呼ばれ、岩登りはフリークライミングと呼ばれ、従来の合宿とは異なる小川山などでの高難度クライミングを目標にした会員も現れ始めた。

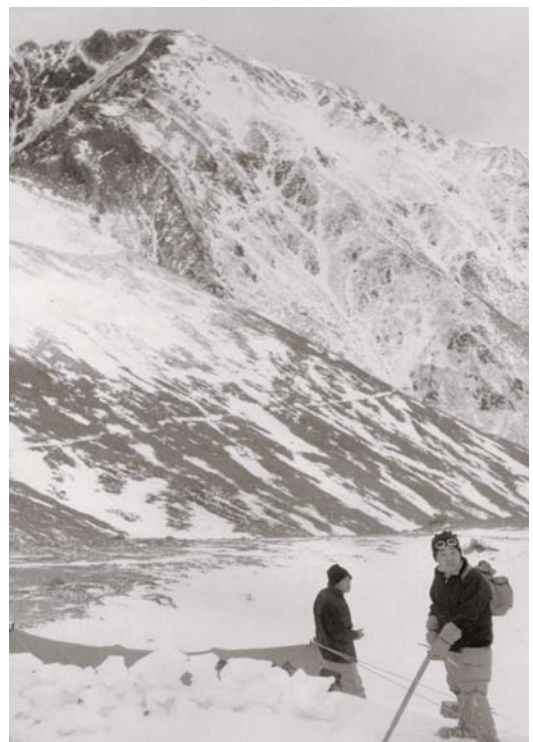
## 冬山合宿

冬合宿の第一回計画は豊橋山岳会の前身である豊橋スキー山岳会の流れを汲むスキー合宿が計画されておりその後も多くの山スキーを利用した合宿が実施されている。

縦走から雪稜登攀まで夏季同様にオールラウンドな計画が特徴的で、1997(H9)年よりアイスクライミングに目標を絞った合宿も目立つようになってきた事は、フリーとアルパインクライミングの細分化に似て、より多くのジャンルの登山を楽しむ会員が増えてきたことを示す。



1963(S38)年冬 荒川岳を目指して



1963(S38)年冬 大聖寺平にて

## 合宿詳細

1958(S33)年から始まった南アルプスでの冬合宿は1966(S41)年まで連続で計画され、主要ルートの縦走及びピークハントを行いその成果として南アルプス特集号(季節風10号)を発刊した。

同時期の1966年夏には南ア北岳バットレスにて岩登りを行い、当会における初期の岩登り時代のスタートとなる。1967年には北アルプス穂高岳周辺にて3パーティ、さらに岩登り熱の高まった1968年には同じく穂高岳周辺、滝谷、前穂東壁、北尾根三峰、四峰に6パーティ。その集大成として1969年7月には当会初の公式登山隊をヨーロッパアルプスに送り出す。

その後、夏合宿としての岩登り熱は冷めず、冬季登攀要素の濃い合宿が組まれ始めた。1972年5月には北アルプス剣岳、1973年12月には北アルプス穂高岳集中とし、明神岳東稜、酒沢岳西尾根、前穂高岳北尾根より集い、1974年(S47)12月には北アルプス槍ヶ岳集中とし、北部より硫黄尾根、北鎌尾根、南西側からは中崎尾根より集中。1975年7月には創立20周年としてインドヒマラヤ遠征に繋がっていく。

1980(S55)年より北アルプス屏風岩、奥鐘山、丸山東壁などより困難度の高いエリアにて計画が立てられ、第2期の岩登り時代が訪れる。

1989(H1)年より公式合宿となった春合宿は北アルプス双六岳、山スキーによる乗鞍岳などでおこなわれている。

当初は個人山行で計画されていたアイスクライミングにおいても1997(H9)年には南八ヶ岳周辺で合宿として行われ、新しいジャンルを確立している。

近年では、1999年冬の北アルプス北穂高岳滝谷第4尾根、2003年夏の北アルプス烏帽子岳～水晶岳をはじめとする縦走、2004年の南八ヶ岳広河原沢3ルンゼにおけるアイスクライミングまで、オールラウンドな活動を展開している。



1991(H3)年春 槍ヶ岳 中崎尾根



1999(H8)年夏 甲斐駒ヶ岳 赤石沢Aフランケ



1999(H8)年冬 鹿児島槍ヶ岳 荒沢奥壁